

「分子生体応答セミナー」を開催

2016年12月12日

12月12日（月）に、がん進展制御研究所4階会議室において、アメリカ・ペンシルバニア大学医学部 博士研究員である倉知 慎先生を招いて、分子生体応答セミナーを開催しました。

セミナーでは「転写因子 BATF による CD8 陽性 T 細胞分化の制御」という演題で、細胞障害性 T 細胞のメモリー機能の獲得ならびに生存シグナルに関する最新の研究成果を中心に講演をしていただきました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約 15 名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



分子生体応答研究分野セミナー

日時:2016年12月12日(月)17:00~18:00

場所:がん進展制御研究所・会議室(4階)

演者:倉知 慎 先生

(米国・ペンシルバニア大学・医学部・博士研究員)

演題名:

転写因子BATFによるCD8陽性T細胞分化の制御

倉知先生は、本学・医学部の旧第一内科で学位取得後に、東京大学・医学部・分子予防医学(主任・松島教授)で助教を務められ、ペンシルバニア大学に留学しました。東京大学在籍中は、CD8陽性の細胞障害性T細胞の分化機構について、特にケモカインとの関連での研究を精力的に行っていました(J Exp Med 2011, 208: 1605-1620)。

ペンシルバニア大学留学後は、細胞障害性T細胞分化機構に関与する分子機構について研究を進められ、AP-1転写因子であるBATFが、ナイーブ細胞障害性T細胞から、エフェクター細胞障害性T細胞への分化過程に、密接に関与していることを明らかにしています(Nature Immunol 2014, 15: 373-384)。今回は、細胞障害性T細胞のメモリー機能の獲得ならびに生存シグナルに関する最新の研究成果を紹介していただく予定です。

多くの方のご来聴を歓迎いたします。

向田 直史(分子生体応答・内線6735)